

重要無形文化財「琉球舞踊」保持者の追加認定(総合認定)について

文化財課

国の文化審議会は、令和7年7月18日(金)に開催された同審議会文化財分科会の審議、議決を経て、重要無形文化財「琉球舞踊」保持者の追加認定(総合認定)を下記のとおり、文部科学大臣に答申した。認定の日は、今後官報に登載された日付となる。

1 重要無形文化財「琉球舞踊」保持者の追加認定(総合認定)

「琉球舞踊」は、平成21年9月2日に重要無形文化財に指定され、その保持者として琉球舞踊保存会会員が総合的に認定され、現在81名の保持者がいる。これらの保持者に加えて、10名を保持者の団体の構成員として「追加認定」するものである。

※年齢は令和7年7月18日現在

重要無形文化財の名称		保持者			
		氏名	芸名	年齢	住所
琉球舞踊 10名	舞踊 4名	あし みね りつこ 安次嶺 律子		満76歳	沖縄県
		ひ が ひでみ 比嘉 英美	まじ きな ひでみ 真境名 英美	満67歳	沖縄県
		おおた もりくに 大田 守邦	たまぐすく せいぎ 玉城 盛義	満58歳	沖縄県
		すどう しげの 周藤 秀乃	しまぶくろ しげの 島袋 秀乃	満58歳	沖縄県
	歌三線 2名	やまし ろ あきら 山城 暁		満74歳	沖縄県
		と な き やすひろ 渡名喜 康広		満70歳	沖縄県
	箏1名	たいら 平良 マサエ		満80歳	沖縄県
	笛1名	なかだ はるみ 仲田 治巳		満68歳	沖縄県
	胡弓1名	ひ が きよし 比嘉 清		満78歳	沖縄県
	太鼓1名	きんじょう もりまつ 金城 盛松		満62歳	沖縄県
所属する団体名	琉球舞踊保存会				
保持者及びその代表者の氏名	琉球舞踊保存会会員 代表者 大田 秀子 (玉城 秀子)				

(1) 追加認定者の概要

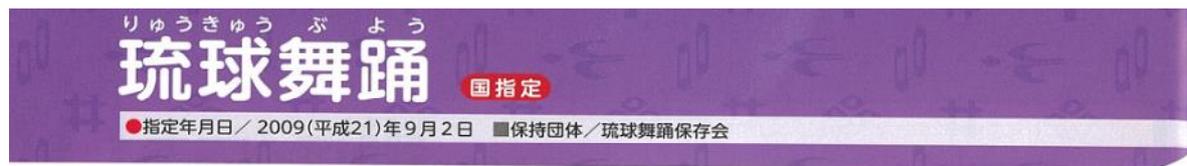
今回認定しようとする 10名は、琉球舞踊の技法を高度に体現し、重要無形文化財「琉球舞踊」の保持者としてふさわしい者であるので、重要無形文化財「琉球舞踊」の保持者の団体の構成員(琉球舞踊保存会会員)として追加認定するものである。

(2) 追加認定の経緯

第1次認定 39名 平成21年9月2日
第2次認定 27名 平成29年10月2日
第3次認定 32名 令和4年10月31日
現保持者数 81名(延べ98名)

(3) 今回追加認定後の保持者数

91名(延べ108名)



国指定重要無形文化財



加那ふ一天川：谷田嘉子 金城美枝子*



かせかけ：玉城節子*

琉球舞踊は、沖縄の歴史と伝統の中で芸術的に洗練された特色ある舞踊です。琉球国時代から伝わる古典舞踊と、明治以降に庶民の風俗や民謡を取り入れて創作された雑踊に大別されます。

古典舞踊は、琉球国で中国からの使者をもてなすために創作され、王府の保護のもと芸術的に洗練されました。歌三線を中心とする琉球古典音楽を伴奏に、役柄の性別や年齢により「老人踊」「若衆踊」「女踊」「二才踊」に分けられます。その中でも中心と

なるのは「女踊」で、足の運び、構え、腰(ガマク)の使い方、視線の動きや顔の向け方、手や指の所作(振り)などに独特の技法があり、感情を抑えた所作で、女性の心の動きを豊かに表現しています。

一方雑踊は、古典舞踊の技法をもとに明治以降に創作されました。軽快な沖縄民謡を伴奏として、庶民的な芭蕉布などを衣裳に使い、庶民の活力や生き生きとした感情を表現しています。

(*写真提供：国立劇場おきなわ)